科目ナンバリング	U-LAS05 20029 SJ74				
授業科目名<英訳>	都市空間論基礎ゼミナールII Introductory Seminar on Urban Space and Architecture II			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　前田　昌弘
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

地球上のどこにいても他の地域の情報をかなり高い精度で知ることが可能になった現代。バーチャルな技術の進歩は目覚ましく、私たちは便利な生活を享受している。このような時代にあって、都市や建築物がある場所を訪れ、都市や建築物について調べ、そこに生きる人たちと対話するフィールドワークは今なお有効である。そればかりか、このような時代にあってフィールドワークのかけがえのない大切さは、ますます際立っているように思える。
この授業では、都市や建築、集落の空間構成とそこの生きる人々の営みに迫る方法について紹介し、また、受講生はフィールドワークをみずから実践し、都市空間の魅力に迫る。

[到達目標]

都市や建築、集落が形成・発展・継続する原理について理解するとともに、フィールドワークを通じて現代の都市空間について考察する力を養う。

[授業計画と内容]

都市や建築、集落を扱うフィールドワークの方法論について文献（『建築フィールドワークの未来形』）の講読を通じて学び，履修学生には担当箇所の発表を課す（課題1）。また，吉田キャンパス内の空間，場所を対象としたフィールドワークを履修生が企画・実施し，成果の発表を課す（課題2）。いずれの課題も履修者は3〜4名程度のグループで取り組む。

第1回　イントロダクション：現実と対話する営みとしてのフィールドワーク
第3回　講義 フィールドワークの実際①：調査の視点・方法の例の紹介（みる・きく・はかる）
第4回　講義 フィールドワークの実際②：過去の吉田キャンパスフォールドワーク事例の紹介
第5回　吉田キャンパスを歩く：構内の建物，場所をみて歩きながら議論
第5回〜7回 課題1 文献講読担当箇所について発表
第8回〜9回 課題2 フィールドワーク 調査計画の検討
第10回〜12回 課題2 フィールドワークの実施
第13回〜14回 課題2 フィールドワークの成果発表
第15回　フィードバック

＊授業の内容・順序は変更となる可能性もある

[履修要件]

演習を伴うため定員を設ける場合がある。スタート時点では都市空間やフィールドワークに関する予備知識は必ずしも必要ではないが，授業中必要になる知識については授業内で適宜補足し，履修者が文献・資料等を用いて各自で学びを深めることを推奨する。

都市空間論基礎ゼミナールII(2)へ続く↓↓↓

都市空間論基礎ゼミナールII(2)

[成績評価の方法・観点]

発表（40%），レポート（60%）によって評価する。

[教科書]

日本建築学会 編『建築フィールドワークの未来形』（昭和堂，2026年1月刊行予定）

[参考書等]

（参考書）
日本建築学会 編『建築フィールドワークの系譜―先駆的研究室の方法論を探る』（昭和堂）ISBN: 9784812217313

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前にテキストを読み込むとともに，授業後には参考図書にも目を通していただきたい。また，実際の建築物にできるだけ多く触れていただきたい。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワー（KULASISに掲示）の来室、メールでの相談を歓迎します。
フィールドワークを行うため，学生教育研究災害傷害保険（略：学研災）へ加入しておくこと。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部